

MLP
Monthly

MLP マンスリー

2020年5月の

MLPの動きをザックリご紹介

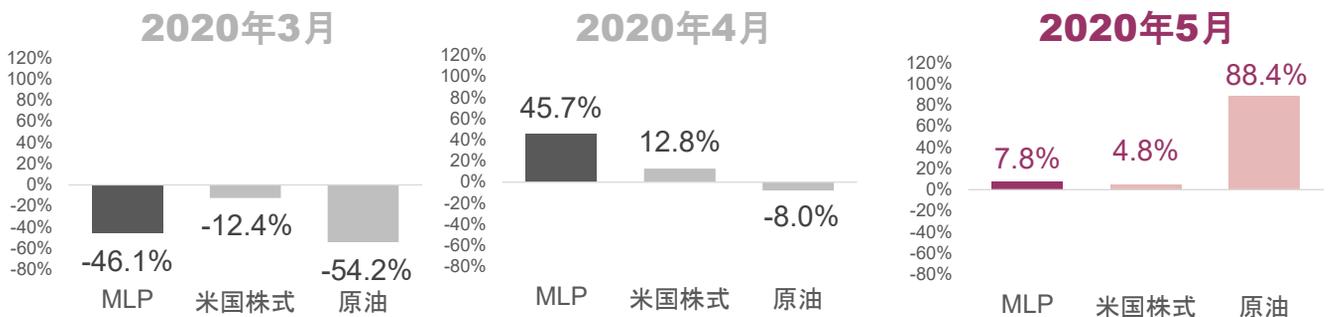
nikko am
fund academy

■ 当月のS&P MLP 指数の動き

5月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+7.8%と2カ月連続で上昇しました。

欧米で行動制限緩和の動きが広がる中、経済活動再開に対する期待感などから米国株式市場が上昇し、MLPも上昇基調となりました。需給改善期待などからWTI原油先物価格が大きく上昇し、1バレル=35米ドル台を回復するなど、原油市場が好転したことも投資家心理を支えました。

■ 過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)



■ 主要指標の動き

MLP: S&P MLP 指数、米国株式: S&P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3カ月前月末	前年末	前月末比	3カ月前月末比	前年末比
S&P MLP 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	3,077.54	2,855.70	3,640.46	4,443.25	7.8%	-15.5%	-30.7%
プライスリターン	843.79	797.62	1,027.85	1,283.04	5.8%	-17.9%	-34.2%
S&P 500種 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	6,227.81	5,944.68	6,011.73	6,553.57	4.8%	3.6%	-5.0%
プライスリターン	3,044.31	2,912.43	2,954.22	3,230.78	4.5%	3.0%	-5.8%
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	554.62	544.36	643.29	846.58	1.9%	-13.8%	-34.5%
プライスリターン	291.59	289.65	343.53	456.46	0.7%	-15.1%	-36.1%
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,174.09	1,172.05	1,380.03	1,481.35	0.2%	-14.9%	-20.7%
プライスリターン	269.47	269.63	320.40	345.21	-0.1%	-15.9%	-21.9%
米国ハイイールド債 (ICE BofA Merrill Lynch 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))							
トータルリターン	1,330.99	1,272.77	1,389.57	1,411.39	4.6%	-4.2%	-5.7%
プライスリターン	70.85	68.09	75.14	77.11	4.1%	-5.7%	-8.1%
米国10年国債利回り							
	0.65%	0.64%	1.15%	1.91%	0.01	-0.50	-1.26
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	35.49	18.84	44.76	61.06	88.4%	-20.7%	-41.9%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	1.85	1.95	1.68	2.19	-5.1%	9.8%	-15.5%
米ドル (対円)							
	107.83	107.18	107.89	108.61	0.6%	-0.1%	-0.7%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。■指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

■ 当月の出来事いろいろ

- S&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、新型コロナウイルスを巡る米中対立への警戒感が広がる中、FRB(米連邦準備制度理事会)議長が米経済の長期低迷リスクに言及したことなどが嫌気され、上旬は上値の重い動きとなった。しかしながらその後は、経済活動再開への期待感や新型ウイルスのワクチン開発・実用化への期待感などを背景に、米国株式市場が上昇する中、原油価格が堅調に推移したことなどもあり、MLPは上昇基調となった。
- WTI原油価格は、4月20日にマイナス価格を付けたものの、その後上昇基調に転じ、前週末比で5月第4週末まで5週連続で上昇した。欧米を中心に行動制限緩和の動きが広がり、経済活動再開に伴う原油需給改善への期待が広がったこと、OPEC(石油輸出国機構)プラスにより5月から始まった原油の協調減産について、規模が縮小される予定である7月以降も、日量970万バレルで維持されるとの観測が広がったこと、そして米原油在庫が16週ぶりに減少に転じたこと、などが好感された。その後、7月以降の協調減産の規模について、縮小させたいとしたロシアの意向が伝わり、産油国の結束に対する疑念が広がり上値が抑えられる場面がみられたものの、WTI原油価格は、29日に1バレル=35米ドル台まで回復して月末を迎えた。
- 米国の油田向けリグ稼働数は、5月第4週末まで11週連続での減少となった。

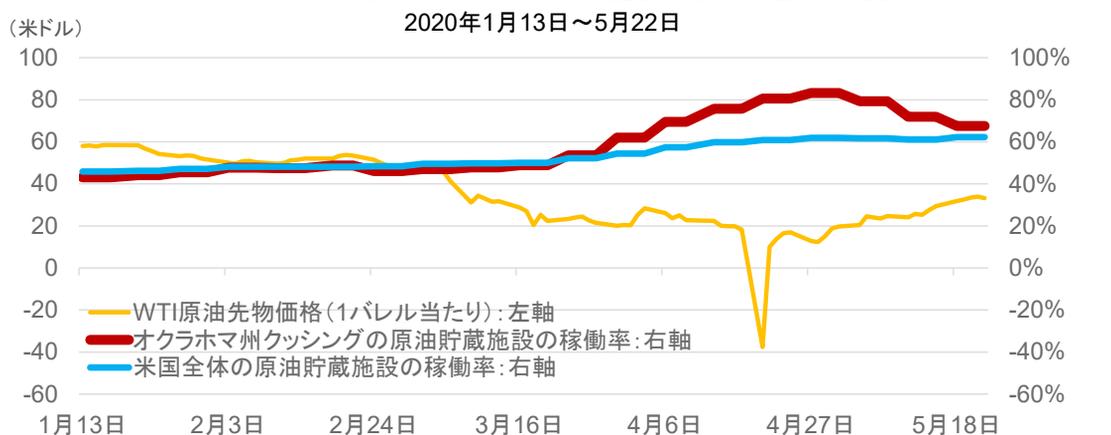
■ 今後の注目点

- 景気や原油需要への影響を見極める意味でも、新型コロナウイルスの感染拡大・収束、および主要国における経済活動再開後の動向が注目される。
- 6月初旬に予定されているOPEC総会およびOPECプラスの会合での、7月以降の協調減産に関する協議の行方が注目される。

■ 米国の原油貯蔵施設の稼働率

WTI原油先物は、米オクラホマ州クッシングにある貯蔵庫で受け渡しが行なわれます。そのため、クッシングだけの個別理由でWTI原油先物価格が上下することがあります。4月20日にWTI原油先物が史上初のマイナス価格を付けたのは、クッシングにおける原油在庫が増加し、貯蔵能力への懸念が強まったことが背景となりました。つまり、原油の売却先の確保はもとより、貯蔵まで難しい状況となったため、原油先物の保有者が売りを急いだ一方、買い手は不在という状況となったというわけです。なお、足元ではクッシングの原油貯蔵施設の稼働率は、3週連続で低下しています。

<WTI原油先物価格(日次)と原油貯蔵施設の稼働率(週次)の推移>



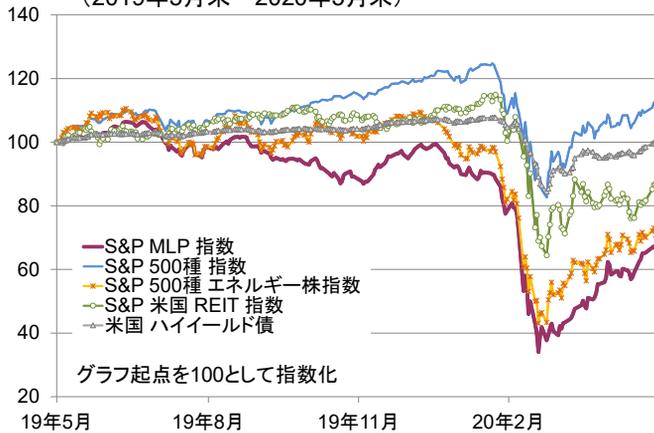
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

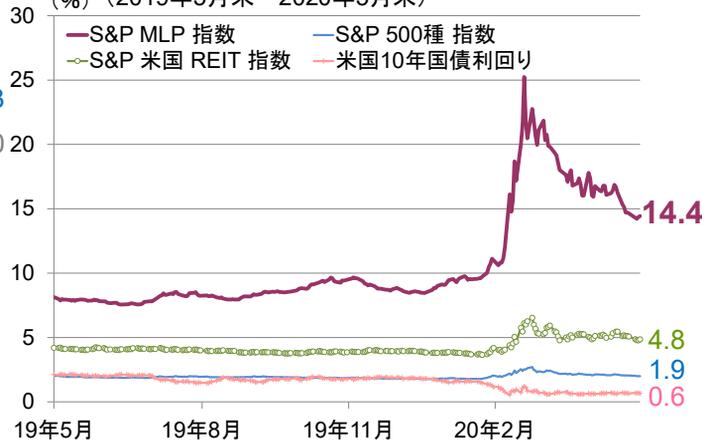
日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。■指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン) (2019年5月末～2020年5月末)



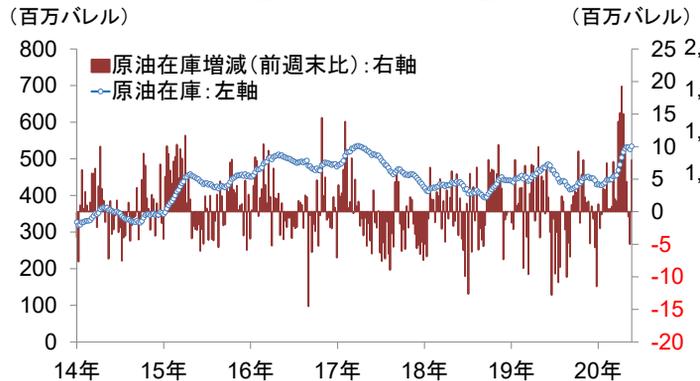
■過去1年の各資産の利回り (%) (2019年5月末～2020年5月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

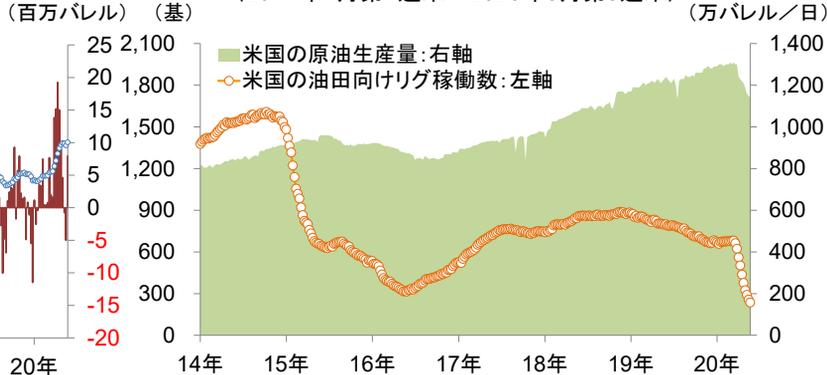
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2020年5月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

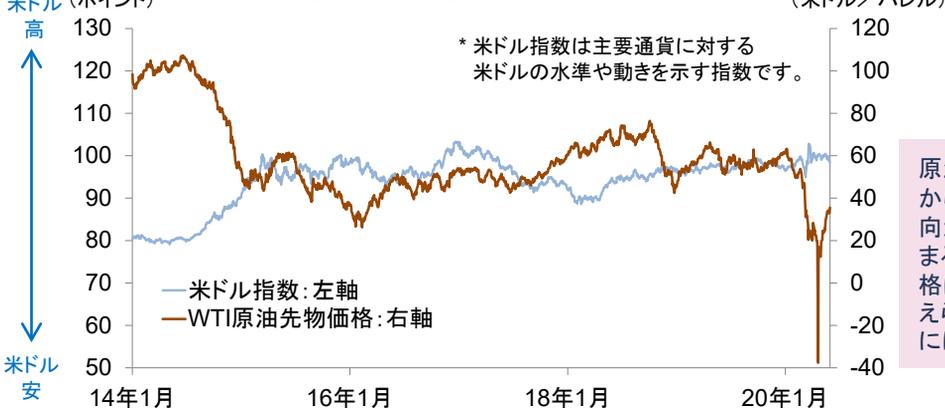
(2014年1月第1週末～2020年5月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2020年5月29日)



* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。